

令和2年度日田市農業振興ビジョン推進委員会会議録

R2.10.27(火) 13:30~

庁議室

1. 開会(事務局)

2. 委員・事務局紹介

名簿順に自己紹介

資料

- ・次第(名簿)
- ・資料(日田市農業振興ビジョン推進委員会設置要綱の改正について(報告))
- ・資料(基本施策・主要施策)
- ・資料(品目別振興)
- ・資料(令和2年梅雨前線豪雨の農業関係の被害について)

3. 日田市農業振興ビジョン推進委員会設置要綱の改正について報告

第4条を改正したことを資料にて報告

4. 議事

(1) 役員選出

委員長 石井 照久 委員

副委員長 江藤 俊幸 委員

(2) 令和元年度主要施策、品目別振興の実績について

(事務局)

資料にて報告

意見交換

1)

農業後継者がいない中、集落営農組織の役割は大きいですが、収支が成り立っていない組織が多い。営農組織の広域化も必要。収入の上がる新たな作物を見つける等しなければならない。ビジョンの後期5ケ年は営農組織の数を増やすのではなく、広域化等、採算性がとれる組織づくりをお願いしたい。また、組織を育てるには、地域を担う新規就農者を育てる支援策が必要。

(事務局)

地域を担う人を作るのが重要。県の方も新規就農者には力を入れ、支援策も出てきている。市も一緒に新しい施策を考えていきたい。本日は「ひたアグリスクール」の活動報告書を配布しているが、昨年度、高校生に農業に興味を持ってもらうように取り組んだもの。また、新規就農者向けのパンフレットも日田市で作成し、就農フェアの時等に、日田に興味を持ってもらえるように活用している。日田の魅力を発信したいので、委員の皆さんもご協力をよろしくお願いいたします。

2)

国・県の支援策もあるが、初期投資など国・県ができていない部分を市がもっと支援すべき。市の施策に入れて行くべき。

3)

自分は天領スイカ部会に所属している。部会長も28才で、若い人が頑張っている組織。先輩が頑張っているスイカを作っていたので後継者もできた。スイカは国・県の事業が使いにくい作物なので、すごく日田市に助けられている。市長と話す機会も作ってもらい、1年1年ステップアップできていると実感している。

農研にも所属しているが、色々な作物の人が集まれるのが農研と思っている。次は会長になりたいと思っている。機会があれば、農研という名前も変えてイメージも変えたい。したい事が明確にある。スイカ・梨等まとめてブランド化して売りたい。そういう取り組みをしたいと思っているので、ご支援をお願いしたい。

(事務局)

そういう頑張っている若い人がいるのは、次に日田に来る方の目標になる。

4)

内水面資源生産量の減は、鮎の販売が減ったという事か。また、ホンモロコの生産はどうなったのか。

(事務局)

日田漁協で養殖した鮎をやな場等に販売しているが、その量が減っている。捕獲した地鮎を日田漁協が買い上げてそれを販売しているが、その量も増えていないので、目標には達成していない。ホンモロコについては、日田漁協が大山で養殖している。

(3) 重点施策の進捗状況及び令和2年度事業の取り組み状況について

(事務局)

農業振興ビジョンの47ページの重点施策と令和2年度事業の取り組み状況を説明

(4) 意見交換

1)

コロナの関係で各部会とも今までとは違う販売体制を整えることが必要だった。販売先は福岡が主体になるので、出向くことができず電話連絡等を行った。出荷額については大部分影響はなかったが、畜産の子牛については幾分価格が下がった。今月あたりからやっと安定してきた。水稲については、今年は日照不足、ウンカの影響で作況が厳しい数字になりそう。

2)

木の花ガルテンについては、コロナの影響が大きかった。

高齢化による担い手不足のため生産量は果樹を中心に低下している。これを食い止めなければならぬ。エノキのファーマーズスクール卒業生が2名農協の組合員としてエノキの生産をはじめ、今年7月に2名が研修を始めた。

耕作放棄地も増えてきているが、営農相談員が町内をまわり、手放す農家とやる気のある人をマッチングしている。6件成立した。

地域集落文産農業がスタートした。農協が施設を作り、高齢者の方に作業をしてもらっている。そこが地域の方との交流の場となっている。

梅、スモモと生産量が減ってきている。改植や新植をやっていこうという若い人がいないと生産量は増えていかない。補助事業の活用だけでなく、農協として抜本的にやっていく事だと思っている。梅・スモモルネサンス協議会が発足した。農協の職員だけでなく、部会の役員と一っしょに5~10年後についてのアンケートをとっている。法人については、作業受託の体制を整えた。果樹を含め、生産量をどう再生するかが課題である。農協と農家と真剣に考えていく。

3)

山田原は千倉ダムを水源としているが、水路等の施設が50年を過ぎ老朽化している。女子畑の話の聞き、危機感を持っている。スイカ・白菜の産地全域が駄目になる。今後、行政には本腰を入れて調査をしていただきたい。

4)

土地利用型農業を展開している。オペレーターがなかなかいない。外からの活用が必要。畑地化で収益を上げ、園芸作物の導入というが、難しい。甘藷に取り組んでいるが、暗渠排水等の整備が必要。

集落営農については、農地の条件が悪いと厳しい。いかに次の農業者を増やすかが課題で、SNSで情報の発信をしたり、交流館で農業体験を行い農業に興味を持ってもらえるよう活動している。

5)

今日は、認定農業者の会の会長という立場で出席している。認定農業者は約 250 人いるが、会員は 80 名程度。会のメリットが見えないので会に入らないのでは。日田市には 3 つのファーマーズスクールがあると聞いたが、会には色んな作物の農業者がいるので、研修の受け皿になれるように協力したい。意欲ある人に来てもらい、以前から日田で農業をしている人がサポートをしていく。農業をした事がない人には、色んな作物を見てもらって決めてもらえばよい。儲からないと新規就農者も来ないし、栽培面積も減っていく。長期ビジョンを持つての取り組みが必要。

6)

新規就農者等、気持のある若い人を一ヶ所に集めたい。その受け皿が日田青年農業研究会連絡協議会になればいいと思っている。そのため組織を活性化させる事が必要。

スイカ・白菜を栽培している人は皆頑張っている。梨部会の責任は重い。若い人には果樹だけでなく、畑作の人ともつながりを持ち、何かできると良い。お互いのためになると思っている。

7)

今日は、おおいたAFF女性ネットワークの日田代表として来ている。日田市のAFFも高齢化している。若い方にぜひ会員になってほしい。会員には大分県内のピーマン農家や加工に取り組んでいる人達がおおり、經理の研修や視察等とても勉強になる。皆さんも声かけをよろしく願いします。

8)

県として新たな情報を積極的に提案していきたい。生産については、今年の水稲はウンカの被害が大きかったが、害虫に対する新薬・溶剤の情報提供は常にしている。早急な対策ができるよう、早めの情報提供をする。

担い手に関しては農山村振興部と協力している。ファーマーズスクール生の技術相談にのっている。担い手として、できるだけ早く一人立ちしてほしい。農業は一人ではできない。担い手として地域に溶け込むことが必要。組織に魅力がある事も必要。

水田の畑地化については、農家さんがもっと儲かってもらえるよう、品目の選定もしている。職員は昼夜問わず、農家さんと対話をしている。

9)

市の課題は県の課題と言える。

日田市で一番先に目についたのは日田梨復興プロジェクト。災害に強いというのは今後も必要になってくる。若い人が入ってくるには条件が良い事は必要である。今年度3地区が終了するが、今後も引き続きお願いしたい。

新規就農者については、提案できるパッケージがある事。研修できる場所、住むところ、農地。パッケージがある所は、一番先に興味を持たれる。

農業には地域を作る、という側面がある。条件が厳しい地域もあるが、整備して、集落全体を守る取り組みができないかと考えている。

コロナ対策については、県は一番に販売対策をし、web物産展をしている。日田市さんも一緒にできたら、と思っている。

10)

本日は、貴重なご意見をありがとうございました。日田市農業振興ビジョンの見直が来年となっている。基本線を変えることはないが、この中に書かれているのは担い手の問題、農地の問題、販売戦略、災害対応等。そのような中、実態と実績が結びついていないような感覚がある。例えば、担い手対策で新規就農者の数字があるが、今年は竹田市が一番だが、実は昨年までは日田市が1番多かった。けれど、皆さんの中には日田市が県で一番多いという感覚がないのではないか。日田市にはこんなに農業をしてる人がいるんですよ、という見える化が必要。水田を畑地化して高収益のものを、と理論上は正しいが、どういう作物がいいか、きっちり提案できるものがない中で、次に進めていない。そういう課題を整理しながらビジョンの見直しの中で提案をしていきたい。

11)

農業委員会では9月から農地パトロールを行っている。耕作放棄地は増えるばかりであるが、農業委員会として、少しでも解消できるよう頑張っていきたい。

コロナ禍で海外との往来がなく実感はないが、TPP11も4年目を迎え、これからどう変わって行くか、農家にとっては大変な事になるんじゃないかと思っている。畜産と柑橘が一番影響があるとされている。足腰の強い農業が必要。農業振興ビジョンの中にも入れてほしい。

12)

振興作物を行政も農協もいっしょになって見つけてほしい。失敗してもいい位の気持ちで、品目を2つ3つあげてほしい。ビジョンの中に入れてほしい。

(5) その他 令和2年梅雨前線豪雨の農業関係の被害について

(事務局) 資料にて説明。

(委員)

最後に、国の施策で農家の収入は変わってくる。変化に対応できる日田市農業振興ビジョンをお願いしたい。

5. 開会（事務局）